

「宇野理論を現代にどう活かすか」Newsletter

(第2期第27号 - 通巻第39号)

発行：2022年12月21日

山口重克追悼特集号1

柴崎 慎也

(東京経済大学経済学部専任講師 shibasakishinya@gmail.com)

山口重克 著作目録

『宇野理論を現代にどう活かすか Working Paper Series』

2-27-6

http://www.unotheory.org/news_II_26

「宇野理論を現代にどう活かすか」Newsletter

事務局：東京都練馬区豊玉上 1-26-1 武蔵大学 横川信治

電話：03-5984-3764 Fax：03-3991-1198

E-mail: contact@unotheory.org

ホームページ <http://www.unotheory.org>

山口重克 著作目録 * †

柴崎 慎也 **

凡例

(「鑄貨と貨幣の象徴化」と改題し『金融機構の理論』に収録)。

- ・本目録は、日本のマルクス経済学者である山口重克(1932.7.27~2021.9.11)の著作目録である。
- ・著作物は刊行年月日順に配列している。刊行日の記載のないもの、不明なものは、各月の末尾に配列している。
- ・各項目の記載事項は、タイトル、所載刊行物名・出版社、巻号数、所載ページ、刊行年月日、(備考)である。所載刊行物名、巻号数、所載ページについては、著書・編書以外の文献に限る。
- ・●は単著書、■は編書・共著書、▲は単著書に未収録の著作物であることを示している。

1960年代

1961年

「商業信用と銀行信用——信用貨幣流通の意義と限界」, 鈴木鴻一郎編『信用論研究』法政大学出版局, pp.119-179, 1961年12月(刊行日記載なし), (「信用機構と銀行券流通」と改題し『金融機構の理論』に収録)。

1963年

「鑄貨論の問題と貨幣論の方法」, 『電気通信大学学報 人文社会編』電気通信大学, 第15巻, pp.21-50, 1963年12月8日,

1964年

「商業資本と商業利潤——宇野教授の所説によせて(一)」, 『電気通信大学学報 人文社会編』電気通信大学, 第16巻, pp.79-98, 1964年8月10日, (「宇野弘蔵の問題提起と商業資本論論争」と改題し『競争と商業資本』に収録)。

「「マルクス主義発生 of 歴史的背景(林健太郎)」批判」, 『社会主義』社会主義協会, 第155号, pp.48-54, 1964年9月1日, (北村芳太郎の名義で執筆)。

▲「商業資本と商業利潤(2)——宇野教授の所説によせて(二)」, 『電気通信大学学報 人文社会編』電気通信大学, 第17巻, pp.83-105, 1964年12月8日, (「宇野弘蔵の問題提起と商業資本論論争」と改題し『競争と商業資本』に収録)。

1965年

「社会科学と社会工学」, 『電気通信大学新聞』電気通信大学新聞部, 第100号, pp.43-45, 1965年2月15日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

1967年

「商業資本と銀行資本(一)」, 『新潟大学法経論集』新潟大学人文学部, 第16巻第2号, pp.1-34, 1967年2月15日, (「競争

* 本研究は、2022年度の東京経済大学個人研究助成費(研究番号22-08)を受けた研究成果である。

† 本目録の作成にあたって、山口逸子氏、蔭川亮太氏(北星学園大学司書課)に大変お世話になった。ここに記して感謝を申し上げる。

** 東京経済大学経済学部専任講師, 専修大学経済学部兼任講師

の機構としての商業資本」と改題し『競争と商業資本』に収録）。

「第三部 ゼミナール」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅰ——商品・貨幣・資本』筑摩書房，pp. 217-331，1967年9月10日。▲

「商業資本と銀行資本（二）」，『新潟大学法経論集』新潟大学人文学部，第17巻第1・2合併号，pp. 1-56，1967年9月16日，（「競争の機構としての商業資本」と改題し『競争と商業資本』に収録）。

「第三部 ゼミナール」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅱ——剰余価値・蓄積』筑摩書房，pp. 215-300，1967年10月25日。▲

「第三部 ゼミナール」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅲ——資本の流過程』筑摩書房，pp. 249-350，1967年12月10日。▲

1968年

「第一部 解説」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅳ——生産価格・利潤』筑摩書房，pp. 1-157，1968年1月25日。▲

「第二部 問題点」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅳ——生産価格・利潤』筑摩書房，pp. 159-242，1968年1月25日，（④⑤は「マルクスの市場価値論」と題し『価値論の射程』に収録。その他は▲）。

「第三部 ゼミナール」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅳ——生産価格・利潤』筑摩書房，pp. 243-340，1968年1月25日。▲

「異端と通説と正統」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅳ——生産価格・利潤』筑摩書房，月報No. 4，pp. 1-3，1968年1月25日，（『経済学・人間・社会』に収録）。

「「大国日本」の後進性」，『新潟県教育月報』新潟県教育庁企画行政課，第18巻第11号（通巻209号），pp. 38-40，1968年2月20日。▲

「第三部 ゼミナール」，宇野弘蔵編『資本論研究Ⅴ——利子・地代』筑摩書房，pp. 329-438，1968年4月25日。▲

「商業資本の研究」，博士学位論文（東京大学），1968年9月30日，（『競争と商業資本』に収録）。

「信用恐慌論の方法」，鈴木鴻一郎編『マルクス経済学の研究 上』＜宇野弘蔵先生古稀記念＞東京大学出版会，pp. 319-336，1968年9月30日，（「信用恐慌論の方法——純粹資本主義論」と改題し『資本論の読み方』に収録）。

1969年

「岡橋保編『金融論体系』」（書評），『週刊金融財政事情』金融財政事情研究会，第939号，p. 45，1969年5月26日。▲

「桜井毅著 生産価格の理論」（書評），『日本読書新聞』日本出版協会，第1501号，p. 6，1969年6月23日，（『経済学・人間・社会』に収録）。

鈴木鴻一郎編『現代アメリカ資本主義年表』＜東京大学経済学部日本産業経済研究資料第6集＞東京大学出版会，1969年10月20日，（年表の作成）。

1970年代

1970年

「価値表章」，「貨幣」，「貨幣流通の法則」，「貨幣としての金」，「計算貨幣」，「支払手段」，「紙幣」，「生産価格」，「世界貨幣」，「蓄蔵貨幣」，「鑄貨」，「超過利潤」，「補助貨幣」，「流通手段」，『グランド現代百科事典』全23巻，学習研究社，第5巻 p. 185，第5巻 pp. 329-330，第5巻 p. 339，第7巻 pp. 38-39，第7巻 p. 489，第10巻 p. 277，第10巻 p. 287，第12巻 p. 55，第12巻 p. 140，第13巻 p. 290，第13巻 pp. 383-384，第13巻 p. 477，第18巻 p. 243，第20巻 p. 233，1970年10月1日（1978年5月1日完結）。▲

「それ自身に利子を生むものとしての資本」の問題点」, 武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論 上——資本論の形成と展開』<鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会, pp. 413-430, 1970年11月30日, (「資本の物神性——それ自身に利子を生むものとしての資本の問題点」と改題し『資本論の読み方』に収録)。

1971年

「後藤泰二著 株式会社の経済理論」(書評), 『日本読書新聞』日本出版協会, 第1583号, p. 6, 1971年2月15日. ▲

『現代金融の理論』, 時潮社, 1971年11月5日, (小野英祐・志村嘉一・玉野井昌夫・春田素夫との共著). ■

「はじめに」, 小野英祐・志村嘉一・玉野井昌夫・春田素夫・山口重克著『現代金融の理論』時潮社, pp. 1-4, 1971年11月5日, (「筆者一同」とクレジット). ▲

「金融の原理的機構」, 小野英祐・志村嘉一・玉野井昌夫・春田素夫・山口重克著『現代金融の理論』時潮社, pp. 3-41, 1971年11月5日, (『金融機構の理論』に収録)。

1972年

「第1編第2章Ⅲ 『資本論』第三巻」, 鈴木鴻一郎編『マルクス経済学講義』<青林講義シリーズ>青林書院新社, pp. 59-112, 1972年9月25日, (「『資本論』の利子論」と改題し『金融機構の理論』に収録)。

「第1編第3章 『資本論』の諸問題」, 鈴木鴻一郎編『マルクス経済学講義』<青林講義シリーズ>青林書院新社, pp. 113-134, 1972年9月25日. ▲

『宇野弘蔵をどうとらえるか』, 芳賀書店, 1972年11月20日, (清水正徳・海原凜・岩田弘・桜井毅・鎌倉孝夫・大内秀明・降旗節雄・山口勇との共著). ■

「労働生産過程と価値の実体規定」, 清水正徳・海原凜・岩田弘・山口重克・桜井毅・

鎌倉孝夫・大内秀明・降旗節雄・山口勇著『宇野弘蔵をどうとらえるか』芳賀書店, pp. 131-164, 1972年11月20日, (『価値論の射程』に収録)。

1973年

「第4章 総過程論」, 『NHK大学講座 経済学2 資本論と現代』日本放送協会, pp. 74-100, 1973年1月1日, (「競争の機構としての商業資本」と改題し『競争と商業資本』に収録)。

「伊藤 誠著 信用と恐慌」(書評), 『日本読書新聞』日本出版協会, 第1713号, p. 6, 1973年7月9日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

1974年

「解説」, 『宇野弘蔵著作集 第四巻 マルクス経済学原理論の研究』岩波書店, pp. 457-468, 1974年1月16日, (「『宇野弘蔵著作集』第四巻」と改題し『経済学・人間・社会』に収録)。

「産業循環」, 鈴木鴻一郎編著『マルクス経済学』<セミナー経済学教室1>日本評論社, pp. 218-231, 1974年5月30日, (「恐慌と金融機構」と改題し『金融機構の理論』に収録)。

1975年

「鎌倉孝夫『経済学方法論序説』」(書評), 『経済学論集』東京大学経済学会, 第40巻第4号, pp. 119-124, 1975年1月1日. ▲

「宇野弘蔵と『資本論』」, 『現代思想』青土社, 第3巻第13号(12月臨時増刊号), pp. 158-168, 1975年12月20日, (『資本論の読み方』に収録)。

1976年

「商業資本論と競争論(1)」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第41巻第4号, pp. 2-17, 1976年1月1日, (「『資本論』の商

業資本論」と改題し『競争と商業資本』に収録)。

「商業資本論と競争論(2)」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第42巻第3号, pp. 11-25, 1976年10月1日, (「『資本論』の商業資本論」と改題し『競争と商業資本』に収録)。

『資本論研究入門』, 東京大学出版会, 1976年10月30日, (大内秀明・桜井毅との共編)。

「はしがき」, 大内秀明・桜井毅・山口重克編『資本論研究入門』東京大学出版会, pp. 1-2, 1976年10月30日, (「編者」とクレジット)。

「第II章 貨幣・資本」, 大内秀明・桜井毅・山口重克編『資本論研究入門』東京大学出版会, pp. 65-86, 1976年10月30日, (「貨幣と資本形式——流通形態論の方法」と改題し『資本論の読み方』に収録)。

「7 信用と恐慌——資本蓄積の現実的機構」, 大内秀明・鎌倉孝夫編『経済原論』<有斐閣新書 基本経済学シリーズ>有斐閣, pp. 185-211, 1976年11月10日, (「7-1 信用と利子」は▲。「7-2 産業循環と恐慌」は「恐慌と金融機構」と改題し『金融機構の理論』に収録。「7-3 商業利潤」は「競争の機構としての商業資本」と改題し『競争と商業資本』に収録)。

1977年

「編集後記」, 『社会科学のために』時潮社, 第2号, p. 47, 1977年1月31日。

『資本論を学ぶI——第一巻・資本の生産過程(上)』<有斐閣選書>, 有斐閣, 1977年6月25日, (佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄との共編)。

「はしがき」, 佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄・山口重克編『資本論を学ぶI——第一巻・資本の生産過程(上)』<有斐閣選書>, 有斐閣, pp. 1-3, 1977年6月25日,

(佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄との共同クレジット)。

『資本論を学ぶII——第一巻・資本の生産過程(下)』<有斐閣選書>, 有斐閣, 1977年7月15日, (佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄との共編)。

「経済学における自立の論理と完結性」, 『思想』岩波書店, 第638号, pp. 79-93, 1977年8月5日, (『資本論の読み方』に収録)。

『資本論を学ぶIV——第三巻・資本主義的生産の総過程(上)』<有斐閣選書>, 有斐閣, 1977年8月20日, (佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄との共編)。

「1 第三巻「資本主義的生産の総過程」の対象と課題——第三巻と第一巻・第二巻との関係」, 佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄・山口重克編『資本論を学ぶIV——第三巻・資本主義的生産の総過程(上)』<有斐閣選書>有斐閣, pp. 1-18, 1977年8月20日。

「16 商業資本の自立化——商業資本の本質と機能」, 佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄・山口重克編『資本論を学ぶIV——第三巻・資本主義的生産の総過程(上)』<有斐閣選書>有斐閣, pp. 234-249, 1977年8月20日, (「商業資本論論争」と改題し『競争と商業資本』に収録。16-1「『資本論』の内容」は▲)。

「17 商業利潤と流通費用——流通過程の資本の独自性」, 佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄・山口重克編『資本論を学ぶIV——第三巻・資本主義的生産の総過程(上)』<有斐閣選書>有斐閣, pp. 250-270, 1977年8月20日, (「商業資本論論争」と改題し『競争と商業資本』に収録。17-1「『資本論』の内容」は▲)。

「宇野理論の成果と今後の課題 第一部=原理論(報告と討論)」, 『経済学批判 臨時増刊』社会評論社, 宇野弘蔵追悼号, pp. 4-13(報告), pp. 14-43(討論), 1977年9月1日, (報告は「宇野原理論の成果と残

された課題」と改題し『資本論の読み方』に収録。討論は▲）。

『資本論を学ぶⅢ——第二巻・資本の流通過程』＜有斐閣選書＞，有斐閣，1977年9月30日，（佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄との共編）。■

『資本論を学ぶⅤ——第三巻・資本主義的生産の総過程（下）』＜有斐閣選書＞，有斐閣，1977年12月15日，（佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄との共編）。■

1978年

『論争・転形問題——価値と生産価格』，東京大学出版会，1978年3月15日，（伊藤誠・桜井毅との共編訳）。■

「はしがき」，伊藤誠・桜井毅・山口重克編訳『論争・転形問題——価値と生産価格』東京大学出版会，pp. i-iii，1978年3月15日，（伊藤誠・桜井毅との共同クレジット）。▲

K. メイ著「価値と生産価格——ウィンターニッツの解法についての覚書」（翻訳），伊藤誠・桜井毅・山口重克編訳『論争・転形問題——価値と生産価格』東京大学出版会，pp. 29-33，1978年3月15日。▲

M. H. ドップ著「転形問題への補足コメント」（翻訳），伊藤誠・桜井毅・山口重克編訳『論争・転形問題——価値と生産価格』東京大学出版会，pp. 64-65，1978年3月15日。▲

『欧米マルクス経済学の新展開』，東洋経済新報社，1978年4月12日，（伊藤誠・桜井毅との共編・監訳）。■

「はしがき」，伊藤誠・桜井毅・山口重克共編・監訳『欧米マルクス経済学の新展開』，東洋経済新報社，pp. i-ii，1978年4月12日，（「编者」とクレジット）。▲

「序 欧米マルクス経済学の新展開」，伊藤誠・桜井毅・山口重克共編・監訳『欧米マルクス経済学の新展開』，東洋経済新報社，pp. 1-19，1978年4月12日，（伊藤誠・桜井毅と共同クレジット）。▲

「発券の集中と独占——川合一郎教授の発券集中論の検討」，日高普・大谷瑞郎・斎藤仁・戸原四郎編『マルクス経済学——理論と実証』東京大学出版会，pp. 85-98，1978年6月15日，（「発券の集中と独占——中央銀行論の問題点」と改題し『資本論の読み方』に収録）。

『マルクス経済学の現状と展望』＜講座 現代経済思潮 第2巻＞，東洋経済新報社，1978年12月28日，（大内秀明・桜井毅との共編）。■

「はしがき」，大内秀明・桜井毅・山口重克編『マルクス経済学の現状と展望』＜講座 現代経済思潮 第2巻＞，東洋経済新報社，pp. i-iv，1978年12月28日，（大内秀明・桜井毅と共同クレジット）。▲

「流通と価値」，大内秀明・桜井毅・山口重克編『マルクス経済学の現状と展望』＜講座 現代経済思潮 第2巻＞東洋経済新報社，pp. 93-118，1978年12月28日，（『価値論の射程』に収録）。

1979年

「晩年の宇野先生」，宇野マリア編『思い草』，pp. 104-108，1979年2月22日，（『経済学・人間・社会』に収録）。

『経済原論』＜経済学叢書＞，世界書院，1979年3月20日，（桜井毅・浜田好通・春田素夫・永谷清・河西勝との共著）。■

「はしがき」，桜井毅・浜田好通・春田素夫・山口重克・永谷清・河西勝著『経済原論』＜経済学叢書＞世界書院，pp. iii-v，1979年3月20日，（「著者」とクレジット）。▲

「第一篇第三章 資本」，桜井毅・浜田好通・春田素夫・山口重克・永谷清・河西勝著『経済原論』＜経済学叢書＞世界書院，pp. 74-86，1979年3月20日。▲

「第二篇第一章 資本の生産過程」，桜井毅・浜田好通・春田素夫・山口重克・永谷清・河西勝著『経済原論』＜経済学叢書＞世界書院，pp. 91-123，1979年3月20日。▲

「原理論の課題と方法——鎌倉孝夫氏の批判に答える」、『経済学批判』社会評論社、第6号、pp.131-146、1979年4月28日、(『資本論の読み方』に収録)。

「貸付資本」, 「擬制資本」, 「信用制度」, 「生産価格」, 「利子(Ⅱ)」, 小泉明・川口弘・伊達邦春・加藤寛編『現代経済学辞典』青林書院新社、p.114, pp.168-169, pp.501-502, pp.523-524, pp.841-842, 1979年6月5日、(「信用制度」は『経済学・人間・社会』に収録。その他は▲)。

『競争と信用』, 有斐閣、1979年8月25日、(侘美光彦・伊藤誠との共編)。■

「はしがき」, 山口重克・侘美光彦・伊藤誠編『競争と信用』有斐閣、pp.1-4、1979年8月25日、(侘美光彦・伊藤誠との共同クレジット)。▲

1980年代

1980年

『経済学Ⅰ——資本主義経済の基礎理論』<有斐閣大学双書>, 有斐閣、1980年4月30日、(桜井毅・侘美光彦・伊藤誠との共編)。■

「はしがき」, 桜井毅・山口重克・侘美光彦・伊藤誠編『経済学Ⅰ——資本主義経済の基礎理論』<有斐閣大学双書>有斐閣、pp.i-iii、1980年4月30日、(「編者」とクレジット)。▲

「第Ⅱ部第1章 『資本論』の方法」, 桜井毅・山口重克・侘美光彦・伊藤誠編『経済学Ⅰ』<有斐閣大学双書>有斐閣、pp.80-99、1980年4月30日、(『資本論の読み方』に収録)。

「第Ⅲ部第3章 利子論」, 桜井毅・山口重克・侘美光彦・伊藤誠編『経済学Ⅰ』<有斐閣大学双書>有斐閣、pp.334-360、1980年4月30日、(「マルクス信用理論の体系化——宇野理論の展開」と改題し『金融機構の理論』に収録)。

「『資本論』と晩年のマルクス」, 鈴木鴻一郎責任編集『世界の名著 54——マルクス・エンゲルスⅠ』<中公バックス>中央公論社、付録74、pp.1-4、1980年9月20日、(『資本論の読み方』に収録)。

『経済学Ⅱ——資本主義経済の発展』<有斐閣大学双書>, 有斐閣、1980年9月30日、(桜井毅・侘美光彦・伊藤誠との共編)。

■

「はしがき」, 桜井毅・山口重克・侘美光彦・伊藤誠編『経済学Ⅱ——資本主義経済の発展』<有斐閣大学双書>有斐閣、pp.i-ii、1980年9月30日、(「編者」とクレジット)。▲

「過剰生産」, 「株式会社」, 「貨幣取引資本」, 「競争」, 「高利資本」, 「商業資本」, 岡崎次郎編集代表『現代マルクス＝レーニン主義事典』上、社会思想社、pp.244-245, pp.283-287, pp.299-300, pp.408-410, pp.594-595, pp.968-971、1980年11月30日、(『経済学・人間・社会』に収録。「高利資本」は▲)。

1981年

「戦後日本の『資本論』研究と宇野理論」(報告と討論), 佐伯尚美・侘美光彦・石川経夫編『マルクス経済学の現代的課題』<東京大学産業経済研究叢書 コンファレンス・シリーズ>東京大学出版会、pp.11-28(報告)・pp.29-51(討論)、1981年1月20日、(報告は「『資本論』研究の現状——戦後日本の『資本論』研究と宇野理論」と改題し『資本論の読み方』に収録。討論は「本質規定と分析基準」と題し『類型論の諸問題』に収録)。

1982年

「歴史と経済学——宇野弘蔵の歴史観の一考察」, 『現代の解説』児童文学を研究する会、創刊号、pp.2-7、1982年8月(刊行日記載なし)、(「歴史と経済学——宇野弘

蔵の歴史観」と改題し『資本論の読み方』に収録)。

1983年

『競争と商業資本』，岩波書店，1983年2月24日。●

『現代金融の理論と構造』，東洋経済新報社，1983年5月30日，(志村嘉一・小野英祐・佐々木隆雄・春田素夫との共著)。■

「はじめに」，志村嘉一・山口重克・小野英祐・佐々木隆雄・春田素夫著『現代金融の理論と構造』東洋経済新報社，pp. i - ii，1983年5月30日，(「筆者一同」とクレジット)。▲

「金融機構の原理」，志村嘉一・山口重克・小野英祐・佐々木隆雄・春田素夫著『現代金融の理論と構造』東洋経済新報社，pp. 13-37，1983年5月30日。▲

「科学的社会主義とは何か」，『経済評論』日本評論社，復刊第32巻第8号，pp. 82-83，1983年8月1日，(『経済学・人間・社会』に収録)。

『資本論の読み方——宇野弘蔵に学ぶ』，有斐閣，1983年9月25日，●(「はしがき——『資本論』の読み方」は「『資本論』と宇野理論」と改題し『経済学・人間・社会』に収録)。

「冒頭商品の価値の規定について」，『経済学論集』東京大学経済学会，第49巻第3号，pp. 47-61，1983年10月1日，(『価値論の射程』に収録)。

『価値論の新展開』<マルクス経済学叢書1>，社会評論社，1983年12月20日，(伊藤誠・桜井毅との共編)。■

「はしがき」，伊藤誠・桜井毅・山口重克共編『価値論の新展開』<マルクス経済学叢書1>，社会評論社，pp. 1-3，1983年12月20日，(伊藤誠・桜井毅との共同クレジット)。▲

1984年

『金融機構の理論』，東京大学出版会，1984年2月20日。●

『利子論の新展開』<マルクス経済学叢書2>，社会評論社，1984年3月15日，(伊藤誠・桜井毅との共編)。■

「はしがき」，伊藤誠・桜井毅・山口重克編『利子論の新展開』社会評論社，pp. 1-3，1984年3月15日，(伊藤誠・桜井毅との共同クレジット)。▲

「利子論の課題」，伊藤誠・桜井毅・山口重克編『利子論の新展開』社会評論社，pp. 9-16，1984年3月15日。▲

「商業資本論の諸問題」(研究ノート)，『経済学論集』東京大学経済学会，第50巻第2号，pp. 71-85，1984年7月1日，(「日高普の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録)。

「批評について」，『育英会報』日本育英会，第215号，p. 1，1984年7月5日，(『経済学・人間・社会』に収録)。

『二つの経済学——対立から対話へ』<東京大学産業経済研究叢書 コンファレンス・シリーズ>，東京大学出版会，1984年9月30日，(根岸隆との共編)。■

「はしがき」，根岸隆・山口重克編『二つの経済学——対立から対話へ』<東京大学産業経済研究叢書 コンファレンス・シリーズ>東京大学出版会，pp. i - ii，1984年9月30日，(根岸隆との共同クレジット)。▲

「第1章 報告II コメント4」，「第1章 報告II 報告をめぐる討論(要約)」，根岸隆・山口重克編『二つの経済学——対立から対話へ』<東京大学産業経済研究叢書 コンファレンス・シリーズ>東京大学出版会，pp. 43-45，pp. 46-50，1984年9月30日。▲

「武生で過ごした頃」，『ふるさと福井』フェニックス出版，第6号，頁数不明，1984年9月(刊行日不明)，(『経済学・人間・社会』に収録)。

「経済的諸関係と行動主体」，『経済評論』日本評論社，復刊第33巻第10号，pp. 2-18，

1984年10月1日, (『価値論の射程』に収録. 「4 資本と資本家」は▲).

「宇野弘蔵」, 『平凡社大百科事典 2』平凡社, p. 307, 1984年11月2日. ▲

「弱虫礼讃」, 『現代の解説』現代の解説社, 第2号, pp. 2-4, 1984年11月(刊行日記載なし), (『経済学・人間・社会』に収録).

「経済原則と経済法則」, 『現代の解説』現代の解説社, 第2号, pp. 14-34, 1984年11月(刊行日記載なし), (『価値論の射程』に収録).

『マルクス経済学・方法と理論』, 時潮社, 1984年12月20日, (平林千牧との共編). ■

「はしがき」, 山口重克・平林千牧編『マルクス経済学・方法と理論』時潮社, pp. i-ii, 1984年12月20日, (「編者」とクレジット). ▲

「いわゆる「方法の模写」について」, 山口重克・平林千牧編『マルクス経済学・方法と理論』時潮社, pp. 1-14, 1984年12月20日, (『価値論の射程』に収録).

1985年

「商業資本論の諸問題(2)」(研究ノート), 『経済学論集』東京大学経済学会, 第50巻第4号, pp. 16-27, 1985年1月1日, (「阿部真也の問題提起とその検討」および「村上和光の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録).

『恐慌論の新展開』<マルクス経済学叢書3>, 社会評論社, 1985年4月25日, (伊藤誠・桜井毅との共編). ■

「はしがき」, 伊藤誠・桜井毅・山口重克編『恐慌論の新展開』<マルクス経済学叢書3>社会評論社, pp. 1-3, 1985年4月25日, (伊藤誠・桜井毅との共同クレジット). ▲

『経済原論講義』, 東京大学出版会, 1985年12月15日. ●

1986年

「商業資本論の諸問題(3)」(研究ノート), 『経済学論集』東京大学経済学会, 第52巻第2号, pp. 79-95, 1986年7月1日, (「安井修二の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録).

「現代と職人氣質」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30407号, p. 19, 1986年7月14日, (『経済学・人間・社会』に収録).

「本当の豊かさとは」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30424号, p. 21, 1986年7月31日, (『経済学・人間・社会』に収録).

「軍拡と平和運動」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30439号, p. 21, 1986年8月16日, (『経済学・人間・社会』に収録).

「学問は「鈍才」向き」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30449号, p. 17, 1986年8月26日, (『経済学・人間・社会』に収録).

「管理はほどほどに」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30469号, p. 17, 1986年9月15日, (『経済学・人間・社会』に収録).

「価値の概念と社会的必要労働」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第52巻第3号, pp. 21-32, 1986年10月1日, (『価値論の射程』に収録).

「国際化時代に思う」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30484号, p. 25, 1986年10月1日, (『経済学・人間・社会』に収録).

「思想の言葉」, 『思想』岩波書店, 第748号, pp. 68-69, 1986年10月5日, (「貨幣論の方法」と題し『金融機構の理論の諸問題』および『経済学・人間・社会』に収録).

「効率化か便利さか」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第30502号, p. 21, 1986年10月19日, (「効率化の落とし

穴」と改題し『経済学・人間・社会』に収録）。

「老人問題の論じ方」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第 30513 号, p. 21, 1986 年 10 月 30 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

「女性の時代に思う」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第 30528 号, p. 21, 1986 年 11 月 15 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

「自衛官募集に思う」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第 30544 号, p. 17, 1986 年 12 月 1 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

「民活の歴史的意味」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第 30566 号, p. 17, 1986 年 12 月 23 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

「禁煙と日記の続け方」, 『福井新聞』<けさの随想>福井新聞社, 第 30571 号, p. 17, 1986 年 12 月 28 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

1987 年

「馬場宏二著『富裕化と金融資本』」, 『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第 38 巻第 5 号, pp. 289-299, 1987 年 1 月 31 日, (「馬場宏二『富裕化と金融資本』」と改題し『経済学・人間・社会』に収録)。

「商業資本論の諸問題 (4)」(研究ノート), 『経済学論集』東京大学経済学会, 第 53 巻第 2 号, pp. 45-58, 1987 年 7 月 1 日, (「青才高志の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録)。

「労働価値論の射程」, 『現代の解説』現代の解説社, 第 3 号, pp. 7-16, 1987 年 8 月 (刊行日記載なし), (『価値論の射程』に収録)。

「商業資本論の諸問題 (5)」(研究ノート), 『経済学論集』東京大学経済学会, 第 53 巻第 3 号, pp. 92-101, 1987 年 10 月 1 日,

(「青才高志の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録)。

『価値論の射程』, 東京大学出版会, 1987 年 11 月 10 日. ●

1988 年

「商業信用論の諸問題 (1)」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第 53 巻第 4 号, pp. 22-35, 1988 年 1 月 1 日, (「商業信用=貨幣貸付説をめぐる諸問題」と改題し『金融機構の理論の諸問題』に収録)。

「商業信用論の諸問題 (2)」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第 54 巻第 1 号, pp. 76-86, 1988 年 4 月 1 日, (「手形の期限の問題」と改題し『金融機構の理論の諸問題』に収録)。

「経済原論のすすめ」, 『UP』東京大学出版会, 第 17 巻第 4 号 (通巻 186 号), pp. 29-33, 1988 年 4 月 5 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

「オリジナリティとは」, 『育英会報』日本育英会, 第 261 号, 1988 年 5 月 5 日, (『経済学・人間・社会』に収録)。

「商業信用論の諸問題 (3)」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第 54 巻第 2 号, pp. 56-67, 1988 年 7 月 1 日, (「商業信用と利子の問題」と改題し『金融機構の理論の諸問題』に収録)。

「商業信用論の諸問題 (4・完)」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第 54 巻第 3 号, pp. 93-109, 1988 年 10 月 1 日, (「商業信用の限界をめぐる問題」と改題し『金融機構の理論の諸問題』に収録)。

1989 年

「津軽半島の旅——「太宰」を追って小泊へ……」, 『東京と青森』東京青森県人会, 第 22 巻第 4 号 (通巻 252 号), pp. 6-9, 1989 年 4 月 10 日, (「津軽半島の旅 (1)」と改題し『経済学・人間・社会』に収録)。

1990年代

1990年

「青森大好き人間の経済学的ヤキモキ」, 『東京と青森』東京青森県人会, 第24巻第1号(通巻261号), pp. 8-10, 1990年1月10日, (「津軽半島の旅(2)」と改題し『経済学・人間・社会』に収録).

「マルクスは死んだのか——「マル経」学者七人を直撃する」(インタビュー), 『文藝春秋』文藝春秋, 第68巻第2号, pp. 114-129, 1990年2月1日. ▲

「いなかの家の改築のこと」, 『FUKUVI』フクビ化学工業(株)FUKUVI編集室, VOL. 5, 1990年5月(刊行日記載なし), (『経済学・人間・社会』に収録).

「経済学部唯野教授」(インタビュー), 『AERA』朝日新聞社, 第3巻第32号(通巻119号), p. 33, 1990年8月14日. ▲

「価値概念の拡張の必要について」, 『現代の解説』現代の解説社, 第4号, pp. 1-4, 1990年9月(刊行日記載なし). ▲

「流通費用といわゆる価値形成について——新田滋氏の批評に答える」, 『コンセプト・ノワール』CN編集局, 第2号, pp. 6-33, 1990年9月(刊行日記載なし), (『価値論・方法論の諸問題』に収録).

「価値概念の広義化をめぐる」, 「コメントへのリプライ I」, 「一般討論」, 『経済理論学会年報』経済理論学会事務局, 第27集, pp. 6-16, p. 39, pp. 41-52, 1990年10月15日, (「価値概念の広義化をめぐる」は「価値概念の広義化の提唱」と改題し『価値論・方法論の諸問題』に収録. その他は▲).

「小泊の民宿で合宿, 研究会」(インタビュー), 『東奥日報』東奥日報社, 第35546号, p. 13, 1990年10月23日. ▲

1991年

「マル経学者 受難の時代」(インタビュー), 『日本経済新聞』日本経済新聞社, 第37862号, p. 56, 1991年3月18日. ▲

「価値概念について——降旗氏の批評に答える」, 『月刊 状況と主体』谷沢書房, 第184号, pp. 97-106, 1991年3月20日, (『価値論・方法論の諸問題』に収録).

「価値概念の広義化再論——降旗節雄氏の反論に答える」, 『月刊 状況と主体』谷沢書房, 第187号, pp. 129-141, 1991年6月20日, (『価値論・方法論の諸問題』に収録).

1992年

「経済学のいわゆる危機について」, 『国士舘大学新聞』学校法人国士舘, 第332号, p. 2, 1992年1月27日, (『経済学・人間・社会』に収録).

『市場システムの理論——市場と非市場』, 御茶の水書房, 1992年3月1日, (編書). ■

「はしがき」, 山口重克編『市場システムの理論——市場と非市場』御茶の水書房, pp. i-vii, 1992年3月1日, (「ソ連・東欧社会主義の崩壊とマルクス経済学」と改題し『経済学・人間・社会』に収録).

「段階論の理論的必然性——原理論におけるいくつかのブラック・ボックス」, 山口重克編『市場システムの理論——市場と非市場』御茶の水書房, pp. 3-22, 1992年3月1日, (『経済学・人間・社会』および「類型論の理論的要請」と改題し『類型論の諸問題』に収録).

『経済学・人間・社会』, 時潮社, 1992年7月10日. ●

「病気の頃のこと」, (所載刊行物不明), (『経済学・人間・社会』に収録).

「日本のマルクス経済学の理論(とりわけ方法論)の現段階」(ディスカッションペーパー), 『Discussion Papers J-Series』日本経済国際共同研究センター(CIRJE), 1992年9月(刊行日記載なし), (『経済

学論集』東京大学経済学会，第59巻第1号，1993年4月1日に収録）。

1993年

- 「日本のマルクス経済学の理論（とりわけ方法論）の現段階」、『経済学論集』東京大学経済学会，第59巻第1号，pp.91-101，1993年4月1日，（「日本のマルクス経済学の方法論の現段階」と改題し『価値論・方法論の諸問題』に収録）。
- 「私と「原理論」「段階論」」、『経済評論』日本評論社，復刊第42巻第5号，pp.162-172，1993年5月1日，（「私にとってのマルクス経済学・宇野経済学」と改題し『価値論・方法論の諸問題』に収録）。
- 「『貨幣論』岩井克人著」（書評），『エコノミスト』毎日新聞社，第71巻第25号（通巻3069号），pp.120-121，1993年6月8日，（『金融機構の理論の諸問題』に収録）。

1994年

- 『市場経済——歴史・思想・現在』，名古屋大学出版会，1994年4月20日，（編書）．■
- 「はしがき」，山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp. i - ii，1994年4月20日．▲
- 「序論 市場経済と経済学」，山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp.1-7，1994年4月20日，（『価値論・方法論の諸問題』に収録）。
- 「第I編第2章 商業の時代」，山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp.31-48，1994年4月20日，（「商業の生成と世界展開」と改題し『現実経済論の諸問題』に収録）。
- 「流通研究の基本問題——経済理論の立場から」，『流通』日本流通学会，第7号，pp.8-17，1994年10月20日，（「流通の原理的研究の基本問題」と改題し『価値論・方法論の諸問題』に収録）。

1995年

- 「廣松渉の価値・貨幣論と宇野経済学——廣松渉『物象化論と経済学批判』（廣松渉コレクション第四巻）」（書評），『思想』岩波書店，第852号，pp.118-135，1995年6月5日，（「廣松渉の価値・貨幣論を読む」と改題し『価値論・方法論の諸問題』に収録）。
- 「抽象的人間労働と価値法則」，『情況』情況出版，第2期第6巻第7号，pp.26-34，1995年8月1日，（『価値論・方法論の諸問題』に収録）。

1996年

- 「廣松とのこと」，『廣松渉著作集 第12巻 資本論の哲学』岩波書店，月報4，pp.3-6，1996年9月6日．▲
- 「純粹資本主義論の方法」，『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成8年第3号（通号第97号），pp.31-56，1996年9月25日，（「純粹資本主義論の方法と効用」と改題し『価値論・方法論の諸問題』に収録）。
- 『価値論・方法論の諸問題』，御茶の水書房，1996年11月1日．●
- 「宇野先生とはじめて会った日のこと」，『場』こぶし文庫，No.8，p.7，1996年12月20日．▲

1997年

- 「中小企業の論じ方」，『中小商工業研究』全商連付属・中小商工業研究所，第50号，pp.4-7，1997年1月1日，（『現実経済論の諸問題』に収録）。
- 『増補 市場経済——歴史・思想・現在』，名古屋大学出版会，1997年3月31日，（編書）．■
- 「はしがき」，山口重克編『増補 市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp. i - ii，1997年3月31日．▲
- 「序論 市場経済と経済学」，山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学

出版会, pp.1-7, 1997年3月31日, (『価値論・方法論の諸問題』に収録)。

「第I編第2章 商業の時代」, 山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会, pp.31-48, 1997年3月31日, (「商業の生成と世界展開」と改題し『現実経済論の諸問題』に収録)。

「巻頭のことば」, 『流通』日本流通学会, 第10号, pp.1-2, 1997年9月30日。▲

『アジアにおける工業化の諸問題——中国とインドネシアの繊維産業の調査を通して』<国士舘大学政経学部創設35周年記念双書第2巻(全4巻)>, 国士舘大学政経学会, 1997年11月4日, (編書)。■

「はしがき」, 山口重克編・著『アジアにおける工業化の諸問題——中国とインドネシアの繊維産業の調査を通して』<国士舘大学政経学部創設35周年記念双書第2巻(全4巻)>国士舘大学政経学会, pp.iii-iv, 1997年11月4日。▲

「企業と市場の諸問題と中国」, 山口重克編・著『アジアにおける工業化の諸問題——中国とインドネシアの繊維産業の調査を通して』<国士舘大学政経学部創設35周年記念双書第2巻(全4巻)>国士舘大学政経学会, pp.71-97, 1997年11月4日, (『現実経済論の諸問題』に収録)。

「二十一世紀の武生郷友会像」, 『武生郷友会誌』武生郷友会, 第105号, pp.101-103, 1997年12月(刊行日記載なし)。▲

1998年

「商業利潤論の方法——松尾秀雄の批評に答える」, 『東京経大会誌——経済学』東京経済大学経済学会, 第207号, pp.115-127, 1998年1月21日, (「松尾秀雄の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録)。

「論文の書き方」, 『政経学部ゼミナール年報』国士舘大学政経学部, No.18, pp.1-3, 1998年3月20日。▲

「巻頭のことば」, 『流通』日本流通学会, 第11号, pp.1-2, 1998年7月31日。▲

「商業資本の分化・独立の論理——福田豊の問題提起とその検討」, 『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会, 平成10年第3号(通号第105号), pp.1-48, 1998年9月25日, (「福田豊の問題提起とその検討」と改題し『商業資本論の諸問題』に収録)。

「今、日本の教育を考える(前編)」(座談会), 『国士舘大学新聞』学校法人国士舘, 第406号, pp.4-7, 1998年10月27日。▲

「市場経済は本来合成的な混合経済なのである」, 『現代の解説』現代の解説社, 第5号, pp.8-12, 1998年10月(刊行日記載なし), (『現実経済論の諸問題』に収録)。

『商業資本論の諸問題』, 御茶の水書房, 1998年11月20日。●

「今、日本の教育を考える(後編)」(座談会), 『国士舘大学新聞』学校法人国士舘, 第407号, pp.1-3, 1998年11月27日。▲

1999年

「巻頭のことば」, 『流通』日本流通学会, 第12号, pp.1-2, 1999年9月10日。▲

「貨幣生成論にたいする批判の検討」, 『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会, 平成11年第3号(通号第109号), pp.79-124, 1999年9月25日, (「マルクスの商品貨幣説に対する批判の検討」および「宇野弘蔵の商品貨幣説に対する批判の検討」と改題し『金融機構の理論の諸問題』に収録)。

「近年の商品貨幣説批判の批判」, 『フジ・ビジネス・レビュー』富士短期大学経営研究所, 第10巻第1号(通号第18号), pp.2-8, 1999年9月30日, (「近年の商品貨幣説批判の概観」と改題し『金融機構の理論の諸問題』に収録)。

「純粹資本主義における信用創造」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成11年第4号(通号第110号), pp.121-146, 1999年12月25日, (『金融機構の理論の諸問題』に収録).

2000年代

2000年

「不換制下の信用創造」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成12年第1号(通号第111号), pp.17-44, 2000年3月25日, (『金融機構の理論の諸問題』に収録).

「価値論論争と宇野理論——現代社会分析にとっての有用性」, 降旗節雄・伊藤誠共編『マルクス理論の再構築——宇野経済学をどう活かすか』社会評論社, pp.39-57, 2000年3月30日. ▲

「中間理論としての類型論」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成12年第2号(通号第112号), pp.21-49, 2000年6月25日, (『類型論の諸問題』に収録).

「純粹資本主義論における資本結合」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成12年第3号(通号第113号), pp.79-111, 2000年9月25日, (『金融機構の理論の諸問題』に収録).

『金融機構の理論の諸問題』, 御茶の水書房, 2000年12月1日. ●

「中間理論としての類型論(2)」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成12年第4号(通号第114号), pp.1-33, 2000年12月25日, (『類型論の諸問題』に収録).

2001年

『現代の金融システム——理論と構造』, 東洋経済新報社, 2001年3月22日, (小野英祐・吉田暁・佐々木隆雄・春田素夫との共著). ■

「はじめに」, 山口重克・小野英祐・吉田暁・佐々木隆雄・春田素夫著『現代の金融システム——理論と構造』東洋経済新報社, pp.iii-iv, 2001年3月22日, (「筆者一同」とクレジット). ▲

「序章 金融論の体系と方法」, 山口重克・小野英祐・吉田暁・佐々木隆雄・春田素夫著『現代の金融システム——理論と構造』東洋経済新報社, pp.1-5, 2001年3月22日. ▲

「第1章 金融システムの原理」, 山口重克・小野英祐・吉田暁・佐々木隆雄・春田素夫著『現代の金融システム——理論と構造』東洋経済新報社, pp.7-40, 2001年3月22日, (「第1章第1節 準備的考察——貨幣と資本」は「近代日本の貨幣制度」と改題し『現実経済論の諸問題』に収録. その他は▲).

「外的諸条件の構造化と類型論の方法」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成13年第1号(通号第115号), pp.57-82, 2001年3月25日, (『類型論の諸問題』に収録).

「アジアにおける市場経済の諸類型とその形成・発展に関する研究」, 平成9年度~平成12年度科学研究費補助金(基盤研究B(1))研究成果報告書, 2001年4月(刊行日記載なし), (「華人ネットワーク」は『現実経済論の諸問題』に収録. 「はしがき」は▲).

「華人経済論 序説」, 国士館大学政経学会編『21世紀の展望——政治・行政, 経済, 経営』<国士館大学政経学部創設40周年記念論文集>国士館大学政経学会, pp.149-170, 2001年7月25日, (「華人社会と華人企業」と改題し『現実経済論の諸問題』に収録).

「華人ネットワーク論序説」, 『国士館大学政経論叢』国士館大学政経学会, 平成13年第2・3号合併号(通号第116・117号), pp.27-52, 2001年9月25日, (「華人ネッ

トワーク」と改題し『現実経済論の諸問題』に収録）。

2002年

「分析用具としての原理論とその限界」、『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成14年第1号（通号第119号），pp.27-62，2002年3月25日，（『類型論の諸問題』に収録）。

「『七つの資本主義』を読む（1）」（研究ノート），『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成14年第2号（通号第120号），pp.67-102，2002年6月25日。▲

「『七つの資本主義』を読む（2）」（研究ノート），『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成14年第3号（通号第121号），pp.163-196，2002年9月25日。▲

2003年

『東アジア市場経済——多様性と可能性』，御茶の水書房，2003年2月28日，（編著書）。■

「はしがき」，山口重克編著『東アジア市場経済——多様性と可能性』御茶の水書房，pp.i-vi，2003年2月28日。▲

「華人ネットワーク」，山口重克編著『東アジア市場経済——多様性と可能性』御茶の水書房，pp.111-148，2003年2月28日，（『現実経済論の諸問題』に収録）。

「『七つの資本主義』を読む（3）」（研究ノート），『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成15年第1号（通号第123号），pp.97-128，2003年3月25日。▲

「私の回顧論的傍観者風大学論」，『政経学会報』国士舘大学政経学会，No.47，頁数不明，2003年3月（刊行日不明）。▲

「『七つの資本主義』を読む（4）」（研究ノート），『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成15年第2号（通号第124号），pp.61-86，2003年6月25日。▲

「現代社会と現代流通——分析視角・分析方法」，『流通』日本流通学会，第16号，

pp.6-13，2003年8月29日，（『現実経済論の諸問題』に収録）。

「『七つの資本主義』を読む（5・完）」（研究ノート），『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会，平成15年第3号（通号第125号），pp.151-191，2003年9月25日。▲

「私の少年時代の非行と現代」，『武生郷友会誌』武生郷友会，第111号，pp.27-31，2003年10月（刊行日記載なし）。▲

「経済学の現状および将来（上）」，『月刊情況』情況出版，第3期第4巻第10号，pp.34-51，2003年11月1日，（櫻井毅との対談）。▲

「経済学の現状および将来（下）」，『月刊情況』情況出版，第3期第4巻第11号，pp.19-35，2003年12月1日，（櫻井毅との対談）。▲

2004年

「アメリカ型経営の特徴とメリット・ディメリット」，『学士会会報』学士会，第845号，pp.26-31，2004年3月1日，（『現実経済論の諸問題』に収録）。

「銀行信用論ノート」，『アソシエ21 ニューズレター』アソシエ21，第65号，pp.2-4，2004年7月10日。▲

「多様な資本主義——段階論と類型論（1）」，『月刊情況』情況出版，第3期第5巻第7号，pp.184-187，2004年7月7日，（「歴史と理論の関係」と改題し『類型論の諸問題』に収録）。

「村上和光著『景気循環論の構成』」，『季刊経済理論』経済理論学会，第41巻第2号，pp.99-101，2004年7月20日。▲

「多様な資本主義——段階論と類型論（2）」，『月刊情況』情況出版，第3期第5巻第9号，pp.226-229，2004年10月1日，（「歴史と理論の関係」と改題し『類型論の諸問題』に収録）。

『新版 市場経済——歴史・思想・現在』，名古屋大学出版会，2004年10月20日，（編書）．■

「はしがき」，山口重克編『新版 市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp. i - ii，2004年10月20日．▲

「序論 市場経済と経済学」，山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp. 1-7，2004年10月20日，（『価値論・方法論の諸問題』に収録）．

「第I編第2章 商業の時代」，山口重克編『市場経済——歴史・思想・現在』名古屋大学出版会，pp. 31-48，2004年10月20日，（「商業の生成と世界展開」と改題し『現実経済論の諸問題』に収録）．

「多様な資本主義——段階論と類型論（3）」，『月刊情況』情況出版，第3期第5巻第11号，pp. 232-235，2004年12月1日，（「歴史と理論の関係」と改題し『類型論の諸問題』に収録）．

2005年

『ITによる流通変容の理論と現状』＜日本流通学会流通研究シリーズ＞，御茶の水書房，2005年4月20日，（福田豊・佐久間英俊との共編）．■

「はしがき」，山口重克・福田豊・佐久間英俊編『ITによる流通変容の理論と現状』＜日本流通学会流通研究シリーズ＞御茶の水書房，pp. i - ii，2005年4月20日，（「編者一同」とクレジット）．▲

「ITの進展による経済と社会の変容」，山口重克・福田豊・佐久間英俊編『ITによる流通変容の理論と現状』＜日本流通学会流通研究シリーズ＞御茶の水書房，pp. 3-21，2005年4月20日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

「資本主義市場経済の比較文化論的類型論」，『月刊情況』情況出版，第3期第6巻第5号，pp. 190-222，2005年6月1日，（『類型論の諸問題』に収録）．

2006年

『類型論の諸問題』，御茶の水書房，2006年4月1日．●

「「企業統治」と「所有と経営の分離」」，『アソシエ 21 ニューズレター』アソシエ 21，第88号，pp. 2-4，2006年5月10日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

「電子マネーの貨幣論的考察」，木立真直・辰馬信男編著『流通の理論・歴史・現状分析』＜中央大学企業研究所研究叢書 26＞中央大学出版部，pp. 21-49，2006年8月10日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

“On the varieties of market economy”
（Paper Prepared for the key-note speech in the International Forum on the Comparative Political Economy of Globalization held at Renmin University of China, Beijing, 2 September 2006）
2006年9月2日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

「市場経済の多様性」（北京人民大学での2006年国際シンポジウム用ペーパーの日本語）
2006年9月2日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

「中国とアメリカナイズーション」
『月刊情況』情況出版，第3期第7巻第6号，pp. 47-50，2006年12月1日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

2007年

「社会主義市場経済の定義」
『アソシエ 21 ニューズレター』アソシエ 21，第96号，pp. 2-4，2007年1月10日，（『現実経済論の諸問題』に収録）．

「清水真志著『商業資本論の射程 商業資本論の展開と市場機構論』」（書評）
『経済学論集』東京大学経済学会，第73巻第1号，pp. 69-73，2007年4月1日．▲

『市场经济：歴史・思想・現在』＜社科文献精品译库＞
社会科学文献出版社，2007年5月（刊行日記載なし）
（編書）．■

「中文版序」，山口重克主编『市场经济：历史・思想・现在』＜社科文献精品译库＞，社会科学文献出版社，pp.1-2，2007年5月（刊行日記載なし）。▲

「前言」，山口重克主编『市场经济：历史・思想・现在』＜社科文献精品译库＞，社会科学文献出版社，pp.1-2，2007年5月（刊行日記載なし）。▲

「绪论 市场经济与经济学」，山口重克主编『市场经济：历史・思想・现在』＜社科文献精品译库＞，社会科学文献出版社，pp.1-6，2007年5月（刊行日記載なし）。▲

「第二章 商业时代」，山口重克主编『市场经济：历史・思想・现在』＜社科文献精品译库＞，社会科学文献出版社，pp.26-42，2007年5月（刊行日記載なし）。▲

2008年

「宇野没後30年研究集会での議論に思う」，『宇野理論を現代にどう活かすか』Newsletter，第1期第4号，pp.1-2，2008年1月18日。▲

「宇野弘蔵著／櫻井毅解説 『資本論』と私」（書評），『週刊読書人』読書人，第2728号，p.4，2008年3月7日。▲

「宇野理論と制度派経済学」，『アソシエ21ニューズレター』アソシエ21，第119号，pp.2-4，2008年11月10日，（『現実経済論の諸問題』に収録）。

『現実経済論の諸問題』，御茶の水書房，2008年12月25日。●

2009年

「財政健全化志向のいびつさ」，『全たばこ新聞』全日本たばこ産業労働組合，第1053号（通巻2747号），p.2，2009年9月5日。▲

2010年代

2010年

『宇野理論の現在と論点——マルクス経済学の展開』，社会評論社，2010年7月30日，（櫻井毅・柴垣和夫・伊藤誠との共編著）。■

「はじめに」，櫻井毅・山口重克・柴垣和夫・伊藤誠編著『宇野理論の現在と論点——マルクス経済学の展開』社会評論社，pp.9-20，2010年7月30日，（櫻井毅・柴垣和夫・伊藤誠との共同クレジット）。▲

「小幡道昭の宇野理論批判」，櫻井毅・山口重克・柴垣和夫・伊藤誠編著『宇野理論の現在と論点——マルクス経済学の展開』社会評論社，pp.145-159，2010年7月30日。▲

「宇野弘蔵の「過渡期」説について」，『宇野理論を現代にどう活かすか』Newsletter，第2期第2号（通巻第15号），pp.1-7，2010年11月24日。▲

「マルクス経済学と現代」，『武生郷友会誌』武生郷友会，第118号，pp.39-51，2010年11月（刊行日記載なし）。▲

2011年

「マルクス経済学の市場経済観と現代の市場経済」，菅原陽心編著『中国社会主义市場経済の現在——中国における市場経済化の進展に関する理論的実証的分析』御茶の水書房，pp.91-116，2011年2月10日。▲

「伊藤君のこと」，『伊藤誠著作集 第2巻 価値と資本の理論』社会評論社，伊藤誠著作集によせてNO2，pp.1-4，2011年4月20日。▲

2012年

「「マルクス経済学の市場経済観と現代の市場経済」解説」，『宇野理論を現代にどう活かすか』Newsletter，第2期第7号（通巻第19号），pp.1-10，2012年3月31日。▲

「岩田さんの人と学問」，岩田弘先生を偲ぶ会編『岩田弘 経済学と革命運動』情況出版，頁数不明，2012年4月8日，（五味久壽編『岩田弘遺稿集——追悼の意を込め

て』批評社，2015年12月10日に収録）。

▲

2013年

「現代市場経済分析と『資本論』」，『月刊情
況』情況出版，第4期第2巻第3号，
pp. 131-172，2013年6月1日。▲

「資本主義の不純化と多様化——小幡道昭の批
評に答える」，『季刊 経済理論』経済理
論学会，第50巻第2号，pp. 56-68，2013年
7月20日。▲

2014年

「日本流通学会の歩みの回顧と展望」，『流
通』日本流通学会，第34号，pp. 64-75，
2014年7月10日。▲

「マルクス恐慌理論の全体像と今日的有効
性」，『季刊 経済理論』経済理論学会，
第51巻第3号，pp. 44-53，2014年10月20
日。▲

2017年

「資本主義の歴史的・地域的類型の変容とグロ
ーバリゼーションからローカリゼーション
への循環的交替」，『宇野理論を現代にど
う活かすか』Newsletter，第2期第18号
（通巻第30号），pp. 1-11，2017年2月13
日。▲

2020年代

2022年

“A Systematic Approach to Marxian Credit
Theory Based on Uno Theory” , *Japanese
Discourses on the Marxian Theory of
Finance*, Edited by Kei Ehara, Palgrave
Macmillan, 2022年2月3日。▲

山口重克 年譜

1932年07月27日 福井県武生市（旧今立郡北日野村）に生まれる
1945年03月31日 北日野小学校卒業
1945年04月01日 旧制武生中学校入学
1948年03月31日 武生高等学校併設中学校卒業
1948年04月01日 武生高等学校進学
1951年03月31日 同上卒業
1951年04月01日 東京大学教養学部文科一類入学
1955年03月31日 同上経済学部経済学科卒業
1955年04月01日 東京大学大学院社会科学研究所
理論経済学・経済史学専門課程修士課程入学
1959年03月31日 同上修了（経済学修士）
1959年04月01日 同上博士課程入学
1962年06月01日 同上単位取得退学
1962年06月01日 電気通信大学経営工学教室助手
1965年04月01日 新潟大学商業短期大学部講師
1966年07月01日 同上 助教授
1968年04月01日 法政大学経済学部助教授 金融論担当
1968年09月30日 「商業資本の研究」により経済学博士（東京大学）の学位取得
1972年04月01日 法政大学経済学部教授 経済原論担当
1974年04月01日 東京大学経済学部助教授 経済理論A I担当
1977年07月01日 同上 教授
1993年03月31日 定年により東京大学退職
1993年04月01日 東京大学名誉教授
国士舘大学政経学部教授（～2003年03月31日）
2021年09月11日 死去